

博士課程

2019

授業科目 〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院  
芸術文化学研究所

## 授業科目〈シラバス〉について

この「2019 授業科目〈シラバス〉」は、平成 31 年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

## 大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究 I	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究 II	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	22
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	23
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	24
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	25
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	26
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	27
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	28
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	29
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	30
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	31
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	32

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90229	比較美学研究B (奇数年度開講)	2単位 前期 (集中)	1・2	講義	関村 誠 (非)

## ■テーマ (かたち) の比較美学

### ■授業の概要

古代ギリシアの思想における美学に関わる「かたち」や「現れ」などの概念を検討して、その現代的な意味を探り、創造や受容の機能との関わりを考察する。その上で、現代の美学思想や日本思想と比較吟味していく。

### ■到達目標

- ・美学の古典的な基本概念を理解する。
- ・古典的な理論の理解をもとに創造と受容の場における現代的意味を論理的に考察展開することができる。

### ■授業計画・方法

1. 導入：感性論について
2. 古代ギリシアの模倣と再現の理論
3. プラトンにおける美とエロース
4. 感覚機能とイデア論
5. 現れと影
6. 形と型の機能と創造行為
7. 〈かたち〉と〈うつし〉
8. 見える「かたち」と見えない「かたち」
9. 美と魂の浄化
10. 美の内在性
11. 空間と主体性
12. コーラー（場）と風土
13. 風土と芸術
14. 和辻哲郎とギリシア彫刻
15. 定期試験および解説・まとめ

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・授業で扱う概念を知識としてのみではなく、美的感性的経験の中でどのように位置づけられるかなどを含めてディスカッションも行います。
- ・授業で扱った内容を自分自身の感性的経験と比較しつつ反省する。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 論述試験 (70%)、平常点 (30%)。平常点は授業への参加状況、ディスカッションへの参加やコメントペーパーの提出状況で総合的に評価。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化学研究所 (博士課程) の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 特になし。

□テキスト 授業中に資料を配付する。

□参考文献 プラトン『パイドン』『饗宴』『国家』(プラトン全集)、プロティノス「美について」(プロティノス全集 第一巻)、ミシェル・アンリ『見えないものを見る カンディンスキー論』(法政大学出版局)、和辻哲郎『風土』『古寺巡礼』(岩波文庫)